

# EARLY MOBILIZATION JOURNAL

VOL.05

第2特集

## 進化する早期離床 —エキスパートはエビデンスを 現場にどう落としこんでいるのか—



この数年の離床に関するエビデンスの蓄積により、離床は行うべき介入に変わった。確かに素晴らしい研究ばかりである。その一方で、「研究のデザインと自身の施設とは環境があまりに違うので参考にならない」と現場との乖離を感じることも少なくない。本特集では、各領域の離床にまつわる最新のエビデンスを、エキスパートはどのように解釈し、臨床に活用しているのかポイントを解説していただいた。



AVERTⅢ以降の脳卒中離床最新エビデンスの臨床的解釈

高野 利彦

エビデンスを臨床応用する時の落とし穴

崎元 直樹

がん患者を離床する意義を考える  
—現状のエビデンスと介入の実際—

櫻木 聡

早期離床